



打屋流し作を私に去
 二十日附り此の筑波船へ
 系組に中甘りの色に用事
 の柳石を今日この葉組に
 常一組に二十日附りの朝
 系に先月の月給八
 筑波船に本組の筆
 故向航を店方御
 碇海中未の月給も
 御印の事とむに昨の
 去後へは泊りスベ
 金子兄方よりお面を
 背丈より一寸拂
 留りてりこ先文の次
 明日は是れ出立をサ子ハ



明日ハ是ハ出立至サ子ハ
ナリヤ申事ナリ困却

我々ト写先方ハ看

次次侍候リ格別ニ也

お暇ヨリ此ノ返可也

夕刻ヨリ入金致救也

因也ハ是ハ成因施

正お儀共方者出立の

上横田畑廻リ経

立山ハ年々少シ也

此コトハハッ所お儀

トシ又ヨリ也コお儀

此ノ也過リ也極取

斗量ヤ可也又百

月只今月廿三日迄

京川ハ歸リ也

上廿九日迄ヨリ也

此ノ也 実

月餘ハ書ハス 諾

邦ソ為也出立ハサ子ハ

はるしーの 実

月監ハ 雲のしス 諾

拂ッ 満モ 出立ハ 十サ子ハ

十ラ ス 甚シク 因却

モ 年ノ 官物 年毎

モ 年ノ のもめ 十ガウ 是ハ

お 留ハ 官物 伏

年ノ 年ノ 十ガウ 年

お 留ハ 官物

下

お 留ハ 官物

お 留ハ 官物

二白 父ス 返 満ノ 義ハ 清

お 留ハ 官物 何

お 留ハ 官物 何